環境保全のボランティア体験講座 2024　講座レポート

自然環境の保全にちょっと気になっている人が、実際に活動地で参加体験できる大人気の講座が、今年度は 18 名でスタートし、第1回目の座学講座は 6 月 2 日（日）に大阪南港 ATC グリーンエコプラザのセミナールームで開催しました。

右下の写真は冒頭の当協会村山理事長挨拶の様子です。
このシリーズ講座の開講も 4 年目になるということで、講座の趣旨や、今年度は社会人に加え 7 大学 2 専門学校の学生や関係者が受講生であるとの話があり、参加に対する感謝と受講生への労いの言葉を述べました。

そして司会による講座の趣旨や流れを説明後、基調講演Ⅰと致しまして「衰退する大阪の生物多様性～チョウたちとまもる里山～」を、大阪府立大学名誉教授の石井実先生にご講演頂きました。

石井先生は、生物多様性や外来生物の話、里山林についてなど、講座で訪れる予定の、能勢にある「三草山」の生物多様性を例に、この日の参加者15名に向けてご解説されました。
生物多様性の基本的なお話や、私たちの暮らしは生物多様性に支えられているというお話、その他石井先生はチョウを中心とした昆虫の生態学を専門とされていますので、チョウが環境指標生物に選ばれている理由や調査方法の説明を分かりやすくご説明され、参加者は熱心に聞き入っていました。

講座の最後の質問コーナーでは、「いろいろな事業に参加されているようだが、原動力は何ですか。」という質問が出ました。
質問に対し石井先生は、「学生時代にギフチョウを研究していく中で、土地利用の変化に気付いたことにより、里山の大事さを知り、私の人生が決まった。」と述べられ、死ぬまで続けていかれる事を告げられました。
司会からは、「日本を代表する昆虫学者の石井先生と同じく、親しくして頂いている魚類学者の先生に、私の知見は先生には遠く及ばないが、熱意は一般の方に同じように伝える事ができるので頑張ります！とお話したことがある。皆さんも、この講座を機に、ぜひ頑張って環境保全の普及啓発をしていってほしい。」とお話しました。

少し休憩を挟んで次の講演ですが、その間に先程石井先生の話の中で登場した特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の標本（大阪みどりのトラスト協会所有）を展示したところ、興味のある学生さんたちが集まってきました。※このカミキリムシは、日本人の心と強く結びついているサクラの木をはじめ、他にもモモ、ウメなど主にバラ科の樹木に発生し枯死させる害虫で、国外外来生物。

休憩が終わり、基調講演Ⅱとしまして、環境保全のボランティアとはどういったものか。どういった意義があるのか。ということを、World Seed 代表理事岡見厚志さんより「環境保全のボランティアとは」と題し、お話をして頂きました。
「ボランティアに参加したことがある人！？」の問いかけに、会場では数名の人が手を挙げていました。岡見さんは、『ボランティアには「自主性」「社会性」「無償性」があり、対価についても様々なものがある。この講座に参加することで自分はどんなことに期待して受講していくのがいいのか、考えてみて貰いたい。』と述べられました。

質問コーナーでは、「ボランティアを運営していて困った人たちは居たりするのか。」という質問が出ましたが、岡見さんの「お酒は飲まないでくださいと言っていたのに活動中に飲みだす人、あからさまに出逢いを求めて来ているおじさん、いろいろいます。ただ、社会に出たらもっと大変なことはたくさんあります。ボランティアの集まりはまだ優しい方だと思います。」という回答に、会場はにこやかな雰囲気に包まれていました。

ここからは、ボランティア協会２団体による大阪府内の自然環境保全活動地の紹介です。
これから体験講座でお世話になる活動地の取り纏めもされています。
まずは公益財団法人大阪みどりのトラスト協会　飯野博道さんによる保全活動地のご紹介です。
大阪みどりのトラスト協会さんは、「みどりの未来を　わたしたちの手で」というキャッチフレーズを合言葉に、主に大阪府内の自然環境保全、緑の募金による緑化の推進、森林 ESD の推進などを

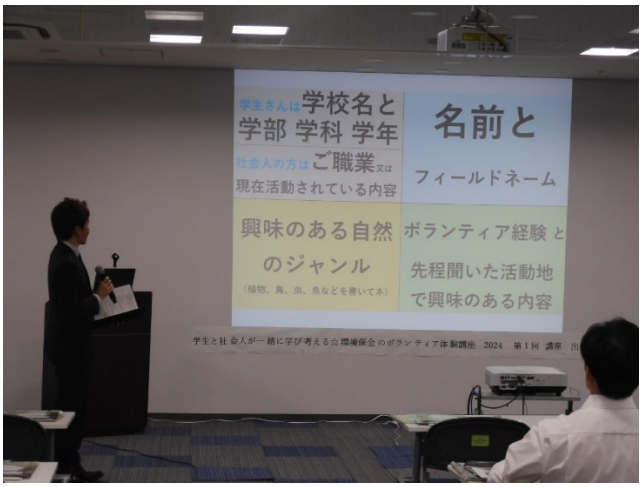
されています。
体験講座内でもお世話になる活動地や、大阪府内で活動する団体の情報サイト「大阪里山ネットワーク」の話が出て、参加者の皆さんはその興味深い内容にスクリーンに視線を集めていました。

質問コーナーでは、地黄湿地での活動参加に関して前向きな質問があり、飯野さんは丁寧にご回答されていました。

そして公益社団法人大阪自然環境保全協会の大塚陽一さんによる保全活動地のご紹介です。大塚さんはお身体の不調からご自席でのご登壇となりました。
大塚さんからは里山についての詳しいお話や、大阪自然環境保全協会里山保全 10 グループの設立順の紹介のほか、保全活動の成果や課題についてのお話がありました。

質問コーナーでは、これでご講演者全員に質問となる積極的な動きを見せる学生さんから、「活動地の未来はどんな風になっていったらいいと思いますか。」という問いが出ました。大塚さんは「人と自然が関わりあっていくその中で、無理の無い範囲でやっていってほしい。」と述べられました。

後半はアイスブレイクの時間です。
これから始まる現地での保全活動を前に、共に活動していく仲間と事前に交流を行うことでまずは仲良くなってもらえるよう促します。
「4 つの窓」という手法を用いて自己紹介をして貰い、更にお互いの趣味嗜好を知って貰えるよう、左下の写真のような内容を、折り目を付けた A3用紙に記入、3 つに分けたグループ内で共有し合いました。



このグループは、これから始まる講座で別れて活動する時の班でもあります。メンバー同士、様々な所属、年代の人達が、自分の所属や趣味嗜好を共有し合い、会話に花を咲かせていました。
参加者の皆さんは、有意義な時間を過ごしました。

左の写真は参加者で行った記念撮影です。
その後、次回告知と受講についての注意事項や持ち物諸注意、活動中の危険生物について事務局連絡をしました。

最後は環境事業協会環境推進部の吉安部長より、締めの挨拶がありました。にこやかな笑顔が素敵です。

終了時には、講師の連絡先を事務局に訪ねてくる受講生も現れ、対応をしました。
早速第 1 回の講座から動きを見せてくれて嬉しい限りです。

最後に回収したアンケートでは、「今後が楽しみです！」という回答が複数寄せられたほか、以下のような回答も複数寄せられました。

・実際の体験を通じて新たな考え方を身に付けたいです。

・知見を増やし視野を拡げていきたい。

・今ある知識をより広め、深められるように頑張りたいです。

・安全に留意し、知見を深めたいと思います。

上記のように今ある知見を更に深めていきたいといった内容に、これから続いていく連続講座受講による結果が早くも期待されるはじまりとなりました。